

移動支援のあり方の検討に関する説明会でいただいたご意見・ご質問

平成30年1月29日（月）、30日（火）、2月6日（火）に実施しました移動支援のあり方の検討に関する説明会で参加者からいただきましたご意見、ご質問と市の回答です。

《検討の必要性について》

Q 今回の移動支援のあり方を検討する目的、対象者は。

市では駅から1km以上、バス停から300m以上離れた地域を公共交通空白地域、駅から300m以上、バス停から300m以上離れた地域を公共交通不便地域と考えている。市内には公共空白地域・不便地域が数箇所あり、本地域は公共交通空白・不便地域に該当している。

公共交通でカバーできない地域については、はなバスを運行し、できる限り公共交通空白地域の解消ができるよう努めているが、当該地域のように道路が狭く、はなバスが通れない地域については、はなバス以外の移動支援の検討が必要であると考えている。

また、今回の調査では高齢の方から多くの回答をいただいたが、妊娠された方や小さなお子さまをお連れの方などを含め、外出が難しい方々、いわゆる移動制約者が対象になると考えている。

Q どの程度のニーズがあったら移動支援を実行するのか。

アンケート調査の結果から一定程度のニーズはあると考えており、特に高齢の方からのニーズが多くあると分析している。今後どのような方を対象に、どのようなサービスができるか、費用負担も含めて勉強会において検討していく。

《勉強会について》

Q 市民委員9人とはどのような構成を考えているか。

当該地域を①向台町一丁目、南町二丁目、②柳沢二丁目、五丁目、③柳沢三丁目、四丁目の3つのブロックに分けて考え、各ブロックから3名×3ブロックと想定し9人とした。

Q 市民委員は9人ではなく、より多くの人に参加してもらったほうがいいのではないか。

勉強会を実施する会場の都合上、9人とさせていただいた。

Q 勉強会の委員で、地域内事業者などは決まっているのか。

現在、地域包括支援センター（新町、向台町）、タクシー協会、コミュニティバスを運行しているバス事業者に協力をお願いしている。

Q 選考方法は、面接にしたほうがいいと思うが。

平成30年4月から勉強会を開始したいと考えており、時間的な制約もあるので、書類選考としている。

《アンケート調査について》

Q アンケート調査は対面で行ったのか。

対面ではなく、調査票を配布し、地域内の公共施設に箱を設置し回収した。

Q アンケート調査の「③移動手段」について、回答を3つまで選ぶということだが、どのように件数を数えているか。

ひとり3つまで回答できるので、例えば10人×3つで30件と数えている。

【アンケート調査についてのその他のご意見】

- ・買物の目的地の方面が実感と異なる。田無方面ではなく、武蔵野市の緑町方面にでかけていると思う。
- ・坂のある方向には、高齢者は出ていかない。
- ・「こういうサービスがあったら利用するか」という調査項目があったらよかったと思う。

《運行方法の検討について》

Q カーシェアのようなものを議論として取りあげることが可能か。

民間の手法も含めて、勉強会にて検討する。

Q 7、8人乗りの小型のバスを地域内に走らせることはできないのか。

バスの大きさの規定は特になく、実際に小型のバスを運行させている自治体もある。どのような乗り物で、どのような運行方法がよいか勉強会で検討する。ただし、乗り物が小さくなると一度に利用できる人数も少なくなるので、時間帯によって利用したい人が殺到すると乗り切れないという課題も出てくる。この地域で、どの程度の移動支援をすることによって、皆さんのご希望が満たされるか今後考えていく。

Q 乗合タクシーの活用ができないか。

高齢化が進んでいる社会において、乗合タクシー等の手段については、国においても検討が進められている。また、区部、三鷹市、武蔵野市におけるタクシーの初乗り運賃を安くするなどの方法が試されている中で、この地域で何ができるか、今後地域の方々と考えていきたい。

Q 運行システムには、いろいろな方法があるようだが、都市部の事例を教えて欲しい。

大きく分けて3つの方法が考えられる。ひとつは、はなバスのような定時定路線による方法。二つ目は、はなバスより小型のバスのような乗合型、三つ目は自宅から目的地までを結ぶタクシーに近いデマンド型の方法である。ただし、デマンド型については、都心部では適した方法ではないと考えている。

《はなバスについて》

Q これまでのはなバスのルート変更のときに、このようなアンケート調査を行ったのか。

はなバスに関しては、このようなアンケート調査を行ったことはない。ルートの変更にあたっては、地域公共交通会議において、専門的な意見を伺いながら検討している。

Q 柳沢五丁目に一方通行の道路があるが、通行は可能ではないのか。

当該道路は通行可能だが、この道路までの相互通行の車道幅員が十分でないため、はなバスの運行は難しい。

Q はなバスによる移動支援を考えているのか。

資料3「はなバスが通行可能な車道の幅員について」は、本地域では道路が狭く、なバスの運行が難しいことを説明するため、作成したものである。今後、勉強会において、はなバス以外の移動支援の方法について検討する。

Q 一方向で巡回するルートにしたときに警察の審査は通らないのか。

時間と路線を決めて運行するはなバスの場合、対向車の車両の幅も関係してくる。この地域については車道の幅員が狭く、相互通行の道路の場合、はなバスの運行は難しい。

Q 車道の狭いところを一方通行にすることはできるのか。

一方通行については、沿道の住民の方の同意が取れるのであれば可能であり、検討の選択肢のひとつとなる。

Q 第3ルートは、田無駅方面への10時台のバスがない。アンケート調査では、10時台の外出も多いので、1時間に1本の運行をお願いしたい。

はなバスについては、勉強会とともに、地域公共交通会議においても検討する。また、3ルートは、乗車数が少ないルートだが、市としては、どのようにしたら、よりご利用いただけるか現在検討している。地域の方からのご意見をいただき、利用しやすい時間帯やバス停の位置については、これから検討する余地があると考えます。

【はなバスについてのその他のご意見】

- ・第3ルートは、行きと帰りで通る場所が異なる。向台町のスーパーや徳洲会病院のあたりには、帰りの時のバス停が遠いので、人によっては買物に行きたくなくなる。そのため、結局武蔵野市の方に流れていると思う。
- ・柳橋のバス停は、田無駅方面にはない。そのため、この地域の方は、結局武蔵野市の方へ行ってしまう。
- ・一方通行の時間帯による規制など他自治体の事例を調べて考えてもらいたい。
- ・第3ルートは遠回り。もう少しコンパクトに走らせたほうがよい。
- ・10時台にはなバスが運行してくれれば利用者は増えると思う。
- ・自分の自治会には、高齢者が多く、タクシーを利用することもある。ただ、タクシーを待っている時間や料金が安いことが困る。せめて1時間に1本は運行してもらえると嬉しい。

《今後のスケジュールについて》

Q 勉強会で話し合われたことはどのようにして形になっていくか。

勉強会において、この地域に適した移動支援の方法について地域の方たちと検討を行い、その内容を地域公共交通会議に諮ったうえで、実証実験を行う予定で考えている。

Q 平成30年度のスケジュールは、平成31年度に実証実験の予定か。

勉強会での意見のまとめり方次第と考える。勉強会としては平成30年度中の予定としているが、意見がうまくまとまれば早い時期に実証実験を行えると考えている。

《地域への周知方法について》

Q 勉強会を進める中で、住民説明会（進捗報告）をやったほうがよいのではないか。

進捗に応じて、説明会などを通じて地域の方に報告する。

Q 今回の説明会で出た質疑について、自治会の皆さんにお知らせしたいので、まとめて知らせて欲しい。

今回頂いたご意見など、ホームページや定期的なニュースのようなものを配布し、皆様のほうへお知らせする。

Q ある程度移動支援の方法がまとまったら知らせてくれるのか。勉強会の中だけで決まるのか。

勉強会で話し合われた検討内容については、地域にお知らせしていく予定である。

《その他》

Q 地域内の公共施設を選ぶ際には、できるだけ高齢者が参加しやすい環境を考えて欲しい。

今回の説明会については、暖房のある施設を検討した中で中学校をお借りした。勉強会については、ご意見の踏まえ、参加しやすい地域内の公共施設を検討する。

Q 田無総合福祉センターへ運行しているバスは、向台中央通りを通過しているが、福祉のほうのバスに関する規制はあるか。

はなバスは民間路線バスのように定時定路線の運行であるため、車道の幅員の制限がかかる。福祉のほうのバスについては、その運行方法とは異なるため、このような厳しい制限はないと考えている。

Q 保谷庁舎に行くのが不便。市の庁舎間バスは、料金を払ってでも利用できないのか。

庁舎間バスの利用については、現在市において検討を進めており、今後勉強会でも検討していく。

Q 保谷庁舎で行う事業を田無庁舎でやってほしいが、所管が違えば保谷庁舎でしか会議などが行われないので、とても不便。ひとつのところで行うのは不公平。

今後、保谷庁舎の機能を都市整備部と危機管理室を除き、暫定的に田無へ移す予定である。これにより窓口業務はほぼ田無の方に集約することになるが、こもれびホールやスポーツセンターはそのままになるので、市内を自由に、また便利に移動するという観点から移動手段を考える必要があるので、いただいたご意見は参考にさせていただく。